



鶴岡市合併・市制施行 10 周年  
開館 10 周年記念

〈特別展示〉カミーユ・ピサロ 《ポントワーズのレザールの丘》



兄弟都市交流・特別展覧会  
鹿児島市立美術館収蔵作品展  
——近代絵画と鹿児島をめぐる美術——

印象派の画家カミーユ・ピサロの《ポントワーズのレザールの丘》をはじめとして、  
鹿児島市立美術館が収蔵する近現代絵画 85 点を紹介します。

会 期：2015（平成 27）年 4 月 25 日（土）～5 月 25 日（月） 28 日間  
9:00～17:30／毎週金・土曜日：9:00～18:30 ※入場は閉場の 30 分前まで  
休館日：月曜日（ただし 5 月 4 日、5 月 25 日は開館）  
会 場：ギャラリー 1・2  
観覧料：一般 700（560）円／高大生 500（400）円／中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

主 催：鶴岡アートフォーラム／鶴岡市教育委員会

後 援：山形県／朝日新聞山形総局／河北新報社／荘内日報社／毎日新聞山形支局／山形新聞・山形放送／読売新聞東京本社山形支局／NHK 山形放送局／さくらんぼテレビ／テレビユー山形／山形テレビ／エフエム山形

概 要： 2005（平成 17）年に合併して誕生した現在の鶴岡市は、2015（平成 27）年に市制施行 10 周年を迎え、合併の年に開館した鶴岡アートフォーラムは開館 10 周年を迎えます。これを記念して、兄弟都市交流・特別展覧会として鹿児島市立美術館が収蔵する作品を鶴岡で紹介しします。鶴岡市と鹿児島市は 1969（昭和 44）年に兄弟都市盟約を結び、交流を深めてきました。美術界においては、鹿児島は黒田清輝（1866-1924）や藤島武二（1867-1943）、和田英作（1874-1959）など、日本の近代洋画を代表する画家を生み出した地でもあります。鹿児島市立美術館ではそうした近代絵画をはじめとして、郷土に関わる作品を多く収蔵するとともに、明治以降の日本の美術を考えるうえで欠くことのできない、印象派から現代へと至る西洋絵画のコレクションも有しています。本展では 2000 点を超えるその収蔵作品から、85 点を厳選して紹介します。



鶴岡アートフォーラム

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3  
TEL:0235-29-0260(代表) FAX:0235-22-6051  
E-mail: info@t-artforum.net URL: http://www.t-artforum.net

## 鹿 児 島 市 立 美 術 館

鹿児島市立美術館は、1954(昭和29)年に設立された旧市立美術館を全面改築し、1985(昭和60)年10月に新たに開館しました。薩摩藩主島津氏の居城であった鶴丸城二の丸跡、城山の麓に位置し、隣には有名な西郷隆盛の銅像を見ることが出来ます。

コレクションには、黒田清輝や藤島武二、和田英作といった日本近代洋画史を代表する作家を中心に、現代へと至る郷土作家の作品を収集するほか、鹿児島市のシンボルである桜島など、同地の景勝地を描いた作品を広く集め、展示しています。

また、印象派から現代までの美術を辿ることのできる西洋美術も収蔵しており、モネやピカソ、ダリ、カンディンスキーの絵画作品やロダン、ムーア、マリエリの彫刻作品を収蔵しています。

美術館では、一年を通じてこうした豊富な収蔵作品を紹介する展示のほか、独自に企画した特別展や市民の展覧会を開催しています。

## 展 覧 会 詳 細

## ○特別展示 カミーユ・ピサロ《ポントワーズのレザールの丘》

鹿児島市立美術館が収蔵する貴重な西洋絵画のコレクションから、特別展示として印象派の画家カミーユ・ピサロ(1830-1903)の《ポントワーズのレザールの丘》を紹介します。ピサロはフランスの印象派を代表する画家です。西インド諸島で生まれ、その後フランスのパリで教育を受けました。コロワの影響を受け、アカデミー・シュイスで絵を学び、マネやモネと知り合いました。印象派展には1874年の第1回展から1886年の第8回展まで、全展に出品しています。ポントワーズはフランス中央部のイル＝ド＝フランス地方のオーワーズ川流域の町で、ピサロは1872年から1884年までこの地を拠点に絵を描き、セザンヌらに影響を与えました。ポントワーズは、ピサロの代表的な画題となっています。



カミーユ・ピサロ  
《ポントワーズのレザールの丘》  
1882年 油彩、キャンヴァス  
80.0×65.0 cm

## ○桜島コレクション

近代から現代まで、さまざまな画家が鹿児島を訪れ、桜島を描いています。鹿児島市立美術館では、そうした作品を収集しています。本展覧会では、黒田清輝、山下兼秀などの鹿児島出身者のほか、青山義雄や香月泰男、中川一政、加山又造らが描いた桜島の絵を一堂に紹介します。

## ○近代絵画と鹿児島をめぐる美術

近代日本の洋画壇に新風を巻き起こした外光派の表現は、渡欧して最先端の西洋美術を学んだ黒田清輝や和田英作らによってもたらされました。彼らの師であるラファエル・コラン作品とともに、黒田清輝ら鹿児島出身の画家たちの近代絵画を中心に、1900年から1980年代までの作品を紹介します。また、《西郷南洲翁像》や《松方正義肖像》といった鹿児島を代表する人物を描いた肖像画も併せて展示します。



山下兼秀《桜島爆発図》  
1914年 油彩、キャンヴァス  
47.0×32.0 cm



(左から順に)  
ラファエル・コラン  
《婦人肖像》  
1893年 油彩、キャンヴァス 81.2×40.7 cm  
黒田清輝  
《アトリエ》  
1890年 油彩、キャンヴァス 72.8×60.6 cm  
石橋和訓  
《松方正義肖像》  
1918年 油彩、キャンヴァス 135.8×99.7 cm

## 《関連企画》

## 1. ゲスト・トーク

4月25日(土) 14:00～15:00  
展覧会のオープンを記念して、鹿児島市立美術館学芸員にお越しいただき、ギャラリー・トークを行います。

## 2. ギャラリー・トーク

5月9日(土)、5月23日(土)  
各回 14:00～15:00  
担当学芸員が展覧会をご案内します。

※1、2ともに 参加料:無料 (ただし、入場には観覧券が必要です)  
申込み:不要、会場へ直接お越しください。

## 鶴岡アートフォーラム

担当: 鶴岡アートフォーラム  
主任学芸員 平井鉄寛  
〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3  
Tel. 0235-29-0260 FAX. 0235-22-6051  
E-mail: hirai@t-artforum.net